

事業所名 フレンズジム滝谷店

公表日 2025年12月1日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%	0%	0%	人数とスペースによっては運動あそびの種類、あそび方の工夫をしている。
	②	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	69%	31%	0%	戸外活動時に職員数が足りない時もあるが概ね適切に配置できている。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	利用者の視覚に入りやすい場所に絵カードや表などを貼り、教室に色わけしたラインを引いて分かりやすく提示している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%	0%	0%	経年劣化による修繕箇所が出てきているが迅速に対応できている。利用者の様子や活動によって環境を変え、安全に活動できるようにしている。
	⑤	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	100%	0%	0%	必要に応じて個室対応を行っている。使用については随時スタッフ間で情報共有し改善を行っている。
務 改	⑥	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%	0%	0%	スタッフミーティングの際に業務改善や意見を出し合いなど話し合える場を設けている。
	⑦	保護者等向け評価表を活用する等により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	100%	0%	0%	アンケート調査を実施し、ホームページに掲載している。聞き取りやご意見を元に業務改善につなげている。
	⑧	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	100%	0%	0%	日頃の打ち合わせや記録の記入時等に話し合いができており、業務改善につなげている。
	⑨	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	77%	23%	0%	外部からの評価を行っているが頻繁ではないため、検討していく必要がある。
	⑩	職員の資質の向上を行うために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか	100%	0%	0%	定期的に研修日を設けている。多店舗合同での研修もこまめに行っている。
	⑪	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	100%	0%	0%	毎月通信でプログラムやイベントのお知らせなどをHPに載せ、利用者へ配布している。
	⑫	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%	0%	0%	半年に1回、必要時は適宜、個々の利用者に対してアセスメントを行い、利用者や保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成している。
	⑬	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	92%	8%	0%	利用者の様子や必要な支援について、支援に関わる職員で話し合った上で個別支援計画を作成している。
	⑭	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	92%	8%	0%	各個別のファイルに計画書が綴じてあり、職員が確認できるようになっている。日々の打ち合わせや職員ミーティング時に計画に沿った支援を職員間で共有している。

適切な 支援の 提供	⑮	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	100%	0%	0%	標準化された個別記録を取り、個々に応じたアセスメント書式を使用している。
	⑯	個別支援計画には、ガイドラインの「提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	0%	生活面について、運動、作業、社会性、コミュニケーション、言語についての五領域を含む本人支援、家族支援や移行支援、地域連携の内容を踏まえた個別支援計画を作成している。
	⑰	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	0%	正社員同士で話し合い、立案している。
	⑱	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	0%	利用者が好き、やりたい、得意なプログラムを取り入れつつも、過去のプログラムなどを参照し、固定化しないようにしている。
	⑲	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、個別支援計画を作成し、支援が行われているか	100%	0%	0%	一人ひとりに合わせた個別支援計画を作成し、支援を行っている。
	⑳	支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	100%	0%	0%	送迎や療育開始前に打ち合わせを行い、送迎や戸外時の役割担当、利用者の情報共有、注意事項などを共有し、連携を図っている。
	㉑	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	92%	8%	0%	記録の記入時、出来事や注意事項、保護者からの相談や要望などその都度情報を共有している。
	㉒	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	その日にあったことや支援検証してみた結果などを詳しく記載し、職員間で共有した上で次の支援につなげている。
	㉓	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	100%	0%	0%	半年に1回、必要時は適宜、個別支援計画に沿った見直しや評価を行っている。
	㉔	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか	100%	0%	0%	ガイドラインの4つの基本活動を組み合わせて支援を行っている。
関	㉕	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか	92%	8%	0%	利用者が決められるような2択や3択で提案したり、視覚的にわかりやすく定時したり、考える時間を設けたりと工夫している。
	㉖	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した適任者が参画しているか（各機関とのケース会議なども含む）	100%	0%	0%	主に児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉗	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	100%	0%	0%	基本的には保護者を通じて行っている。必要に応じて保育園や幼稚園と連絡を取り、調整を行っている。

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	0%	定期的に保育園や認定こども園、幼稚園へ伺い、利用者の情報交換や支援内容等の情報共有を行っている。
	㉑	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	62%	38%	0%	基本的には保護者を通じて行っている。必要に応じて直接就学する学校との連携を取っている。
	㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、必要に応じて助言や研修を受けているか(ケースワーカーや訓練士との情報共有なども含む)	100%	0%	0%	児童発達センターとの連携を図り、時期などを相談したうえで研修を受けている。
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか(戸外活動中での交流等)	92%	8%	0%	戸外活動やイベント等で出かけた際、障害がない子どもとの交流がある。
	㉔	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	送迎時にその日にあった出来事や活動の様子を報告している。必要に応じて電話にて相談に応じている。
	㉕	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	100%	0%	0%	保護者への子育て支援に関するアドバイスは行っているがペアレントトレーニングは行っていない。
保 護 者 へ の 説 明 責	㉖	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	100%	0%	0%	主に児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	初回の契約時に文書などを用いて詳しく説明を行っている。
	㉘	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	100%	0%	0%	標準化された書式を用いて事前に利用者や保護者の意向を記入してもらい、それを参考に個別支援計画書を作成している。
	㉙	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から計画の同意を得ているか	100%	0%	0%	面談の際に保護者に確認してもらいサインをもらっている。
	㉚	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	子育ての悩み相談があった際には面談や送迎時、業務終了後に話を聞きアドバイス等対応している。
保 護 者 へ の 説 明 責	㉛	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	100%	0%	0%	次期を見ながら年に2回ほど保護者懇談会を開催し、保護者同士で交流できる機会を設けている。また、兄弟児も参加できるようなイベントを企画し交流できる機会を設けている。
	㉜	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	契約時に苦情窓口に関する説明を行っている。苦情や要望があった際には話を伺う時間を設け、対応している。

任 等	④①	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	毎月フレンズジム通信を配布し、行事予定のお知らせや活動報告など定期的に行っている。LINEを活用し、保護者との連絡調整やイベントのお知らせ等を発信している。
	④②	個人情報に十分留意しているか	100%	0%	0%	書類の保管や守秘義務の遵守に努めている。保護者からの評価100%を目指していく。
	④③	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	0%	定期的な面談や連絡帳などで行っている。
	④④	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0%	0%	100%	現在は行っていないが、今後企画していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	④⑤	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	92%	0%	8%	事業所内にマニュアルを掲示している。定期的に発生を想定した訓練を実施している。
	④⑥	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	定期的に非常災害発生に備え、実際に想定しながらの訓練や避難経路の確認等行っている。
	④⑦	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	92%	0%	8%	服薬や予防接種に関しては保護者と情報共有している。てんかん発作を持った利用者に関しては保護者へ状況を確認し、事業所で発生した際のマニュアルを作成し職員が確認しやすいようにしている。
	④⑧	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応（保護者からの情報提供も含む）がされているか	92%	0%	8%	保護者に確認し、おやつを提供時には職員間で確認後、札をつけてわかりやすくし、提供している。必要な場合には指示書の提出をお願いしている。
	④⑨	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	100%	0%	0%	安全計画を作成し、施設内の危険箇所の確認や、送迎時、活動時、戸外時に利用者が安全に過ごせるように安全指導を行っている。
	⑤⑩	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	100%	0%	0%	年間の安全計画について保護者へ周知している。
	51	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%	職員が手に取りやすい位置にファイルを置き、各自で確認できるようにしている。打ち合わせ時にヒヤリハットについての共有や注意事項の確認をしている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	年に1回研修する機会を設けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載していくことは、職員間で周知されているか	30%	70%	0%	現在のところは身体拘束を行うケースはないが、職員間の共通理解や学ぶ機会を設けている。	